

神奈川県「高齢者万引き防止プログラム」

(1) 高齢者万引き防止プログラムの背景

令和元年における全刑法犯の認知件数は74万8,559件で戦後最少を更新する一方、高齢者が検挙される割合は前年からさらに増加。検挙人員数全体の22.0%、およそ5分の1が高齢者である。高齢化の進展によって高齢者人口が増える中、高齢者による犯罪の割合が増え続けている。なかでも、高齢者が最も多く検挙されている犯罪は「万引き」である。令和元年、万引きで検挙された高齢者の数は2万2,267人で、高齢者の総検挙者数である4万2,463人の半数以上を占めている。また、高齢者の万引きの検挙人員の推移を初犯者・再犯者別にみると、平成23年は初犯者と再犯者がほぼ同数であったが、平成24年に再犯者が初犯者を上回り、再犯者の割合は年々増え続け、令和元年は58.8%にまで上昇している。神奈川県においても、令和2年万引きの検挙人員3,165人（犯罪少年を含む）に対して、高齢者による万引きの検挙人員は1,292人で約4割を占め、高齢者の万引き被疑者の再犯者率（検挙人数に占める再犯者の割合、過去の罪種は問わない）も65.9%で高い傾向であるため、再犯防止の取組が求められている。

出典：警視庁「令和2年版警察白書」※別添①、神奈川県警察本部 犯罪抑止対策室 資料

(2) プログラムの目的

再犯の防止等の推進に関する法律や国の再犯防止推進計画に基づき、法務省の地域再犯防止推進モデル事業を活用した高齢者等の再犯防止に関する取組として「高齢者万引き防止プログラム」を策定することにより、全国的に再犯率の高い高齢者の万引きに係る再犯の低減を図る。

(3) プログラムの策定方法／プログラムとは

高齢者の万引き防止に関する専門的知見を有する犯罪学及び福祉領域の有識者等を「高齢者万引き防止プログラム策定委員会」の委員とし、3年間の検討の上、プログラムを策定した。プログラムでは、プログラムの理念に沿った冊子と動画を作成し、神奈川県内で万引きで検挙された高齢者に警察署でそれらを配布、視聴してもらう。また、できるだけ身柄引き受けにきた高齢者の家族にも冊子を配り、高齢者の万引き問題の背景を知ってもらい、家庭内での関わりを深めてもらう波及効果をねらう。さらに、地域の福祉関係者、犯罪予防活動に取り組む者等にも冊子を配布し、地域から孤立する高齢者の万引き問題に関して連携して取り組むことをめざす。

(4) プログラムの理念（テーマ&メッセージ）

- 万引きは重大な犯罪である。
- 日頃からの家族とのコミュニケーションの大切さ。
- 地域の人々との関わり大切さ。
- 悩み事があったら一人で悩まないで誰かに相談する。
- 万引きの問題に部外者はいない（地域で取り組むべき課題）。
- 高齢者の万引き問題に関して、誰も置き去りにしない。

(5) プログラムの内容

①対象者

万引きをした高齢者で、主に初犯を想定

②実施場所

神奈川県警察の警察署内

③実施方法

- 万引きで検挙された高齢者の取り調べ後、生活安全課の警察官が当該高齢者に冊子を渡し、身柄引き受けの迎えが来るまでの間に冊子を読んでもらう（またはDVDプレーヤーで動画を視聴してもらう）。
- 身柄引き受けに来た家族等にもできるだけ冊子を配布する。
- 事前に生活安全課の警察官には、「活用の手引き書」を配布しておく、冊子配布の際の注意点などを伝えておく。

④活用の手引き書※別添②

●仕様

A4サイズ、モノクロ、1枚

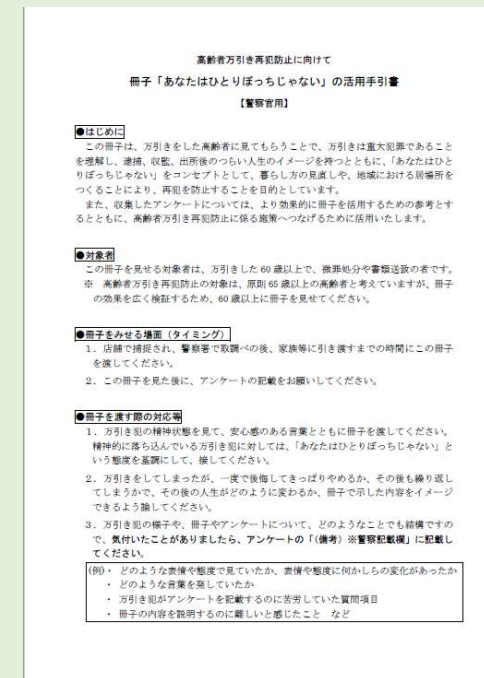
●全体構成

- ・プログラムの目的
- ・対象者
- ・冊子を渡す（動画を視聴する）タイミング
- ・精神的に落ち込んでいる検挙者に接する態度
- ・アンケート記載のお願い
- ・警察記載欄の例（対象者の表情や態度の変化）

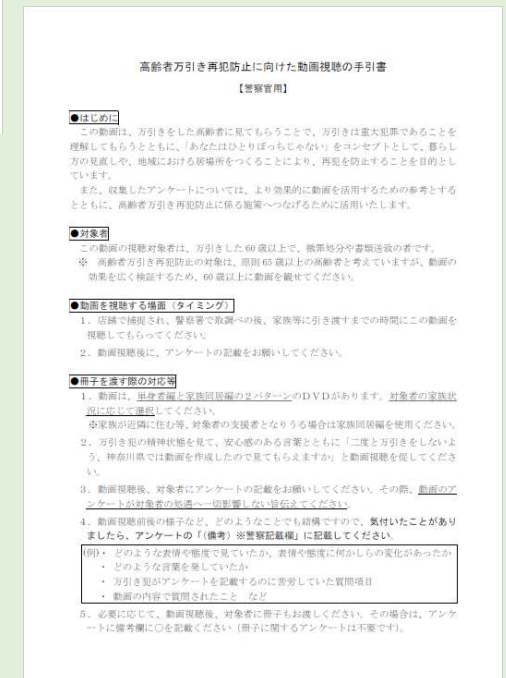
【ポイント】

本プログラムを実施する警察官に対して、プログラムの目的や対象者が冊子や動画を観る際の接し方などを記載した手引き書。取り調べ後、精神的に落ち込んでいる高齢者に対して、どのような声掛けをして冊子を渡せばよいかなどの対応方法を記載している。また、アンケートの回答が処遇に一切影響しないなどの説明内容も記載。

●冊子の活用手引書



●動画視聴の手引き書



⑤冊子、動画の仕様

●提供する情報

- お店側の感情
- お店の経済的損失
- 家族の感情
- 罰金刑、実刑の意味
- 損害賠償請求
- 刑務所生活イメージ
- 万引きの講話を聞いた受刑者の感想
- 生活相談の窓口

冊子

●仕様

B5サイズ、中綴じ、8ページ、カラー（4色）

●全体構成

- 表紙（タイトル）
あなたはひとりぼっちじゃない
- 1、2ページ
窃盗罪、賠償請求、被害者・家族・周りの人の思い
- 3、4ページ
逮捕後の流れ、出所後の人生
- 5、6ページ
暮らし方の見直し、地域の居場所作り
- 裏表紙（相談連絡先）
生活に関する不安や悩み相談先
万引きに関する問合せ先

【ポイント】

万引きの罪の重さを理解させるとともに、再び万引きを起こさないためにはどうしたらよいかを、イラストや図表等をまじえながらわかりやすく解説。視力の低い高齢者にもなるべく読みやすくするため、短いコピー、文字が際立つ原色系の配色、なるべく文字を大きくするなどの工夫で、視認性を高めた。表紙には、地域から孤立させないというメッセージを込めて、様々な職種、幅広い年齢の人物を配した。裏表紙には、この冊子を読んで、生活を見直してみたいと、一步踏み出そうとする高齢者に寄り添えるよう生活に関する不安や悩みの相談先を記載している。

●冊子デザイン

表紙 & 裏表紙



考えたことがありますか？ 万引きで捕ま



わかっていませんか？ 万引きは商品を盗み取る



もう二度と万引きを繰り返さない



動画

●仕様

DVD (mpeg2)、メニュー選択方式、字幕版も収録



●「単身者編」(11分13秒)



●家族同居編(12分12秒)



●全体構成

- ①万引きにより検挙
- ②店の損害と店側の思い
- ③万引き犯罪の刑罰等
- ④家族や周囲の支援者との関わり
- ⑤再犯しない生活に向けて

【ポイント】

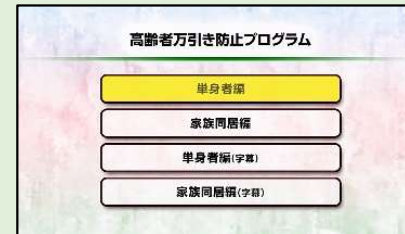
視聴対象者の家族構成に合わせて、「単身者編」と「家族同居編」の2作品を作成。それぞれ主人公の性別の設定を変えた。耳が遠い高齢者にも内容を理解しやすくするため、字幕版を選択方式にした。

万引きした高齢者の目線でドラマを描くことで、万引きをしてしまった主人公に被疑者自身が自分自身を重ね合わせながら、罪の重さや逮捕後の生き方を疑似体験できる構成・演出とした。

具体的には、検挙されてまだ頭が混乱している取り調べ場面から始まり、後半には、主人公が民生委員の援助や家族との和解を通じて、生活のあり方を見直すために一歩踏み出す姿を描いた。

●メニュー画面

・TOP



・単身者編



・家族同居編



・単身者編(字幕有り)



・家族同居編(字幕有り)



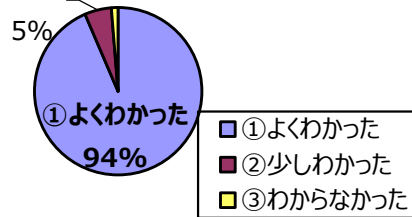
(6) プログラムにより期待される効果（冊子と動画に関する被疑者アンケート結果の抜粋）

取り調べ後、冊子を渡すのと同時に、任意で冊子（動画）の内容に関する質問項目を記載したアンケートへの協力を求めた。非協力的な反応を示す高齢者も数名いたものの、ほとんどの高齢者は反省している様子を見せ、肯定的、積極的な回答が約9割を占めた質問項目が多かった。このことから説諭の場面でこれらの冊子、動画を使用することは、多くの高齢者の再犯防止に十分効果があることが期待される。

冊子（検証数85件）

重大な犯罪であると理解したか

②少しわかった③わからなかった1%



●万引きの重大性の認識

「よくわかった」94%(78/83件)

※受領拒否、無回答を除く

万引きは「窃盗罪」にあたること、お店側のやりきれない思いを知ること、罪を重く認識し、「たかが万引き」という軽い考えを改めることが期待される。

動画（検証数33件）

重大な犯罪であると理解したか



●万引きの重大性の認識

「よくわかった」100%(33/33件)

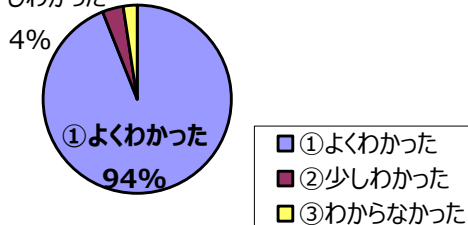
万引きは「窃盗罪」にあたり、お店側のやりきれない思いを知ること、軽い考えを改める事が期待される。

●警察官の観察

店長の怒る姿が印象に残った様子的高齢者いた。

捕まると何が待ってるか理解したか

②少しわかった③わからなかった3%



●捕まると何が待っているか

「よくわかった」94%(78/83件)

※受領拒否、無回答を除く

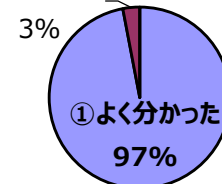
何度も万引きを繰り返すと刑務所に送られることを知ること、再犯の抑止が期待される。

●警察官の観察

「繰り返さない」という箇所を何度も指したり、「刑務所」のページに驚く者もいた。

捕まると何が待ってるか理解したか

②少し分かった



●捕まると何が待っているか

「よくわかった」97%(32/33件)

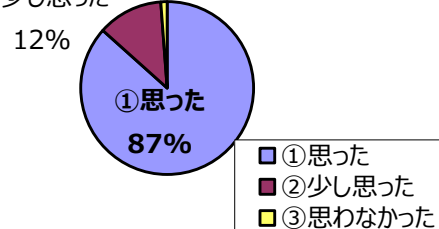
何度も万引きを繰り返すと刑務所に送られることを知ること、再犯の抑止が期待される。

●警察官の観察

「食い入るように」もしくは「終始、真剣な表情で」視聴する高齢者もいた。

暮らし方を見直したいか

②少し思った③思わなかった1%



●暮らし方を見直したいか

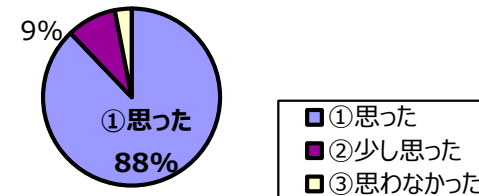
「思った」87%(71/82件)

※受領拒否、無回答を除く

万引きの動機として「節約」というものがしばしば挙げられる。月々決まった収入の中でお金を計画的に使うなど、暮らし方を見直すことで、そのような認知のゆがみの解消が期待できる。

地域や家族のつながりが大切だと思えた

②少し思った③思わなかった5%



●地域や家族の繋がりの大切さ

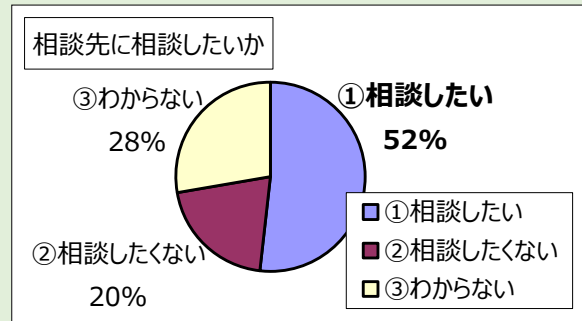
「(そう)思った」88%(29/33件)

主人公が家族に謝る姿や民生委員の勧めによって地域の交流会に参加する姿を見て、家族との関係を見直したり、地域活動へ一歩踏み出すことが期待できる。

(7) 冊子と動画の活用範囲の拡充

行政、地域機関等との連携

●相談先への相談希望者の割合



冊子に関する被疑者アンケートによると、「外部機関に相談したい」高齢者が83名中43名(52%)と半数を占め、何らかの支援を望んでいることが推察された。

高齢者が地域機関等に問い合わせをした際、職員らが適切に対応できるよう、本プログラム

に関して行政、地域機関等への周知が今後の課題として挙げられた。

●行政、地域機関との連携の必要性

まずは、本プログラムの取組みを地域包括支援センターなど、地域の高齢者支援に取り組む福祉関係者に周知を行い、さらには、地域の防犯活動に取り組まれる保護司、シニアの地域の活動サークル等にも幅広く知ってもらうことで、今後は警察、行政、地域機関等が連携して高齢者の孤立化と万引きの問題に取り組む体制の構築が望まれる。

連携例 1：秦野市 地域高齢者支援センター「職員研修会」

●実施概要

実施日：令和2年12月15日

参加者：秦野市内7つの地域高齢者支援センター職員
(各センター1～3名)、市役所高齢介護課担当職員

研修タイトル：犯罪を犯してしまう高齢者「万引き犯罪」について

担当講師：鶴巻地域高齢者支援センター 佐藤 雅美

実施方法：秦野市役所より講義をZOOM配信。

●研修の流れ（前半：ZOOMによる講義／後半：各センターで実施）

★高齢者による万引き行動の概論講義（冊子も活用し）

★神奈川県内の高齢者万引きの状況

★DVD視聴「単身者編」「家族同居編」

★グループワーク「高齢者が万引きを行う時」

DVDの視聴を踏まえて下記の内容を討議。

- ①高齢者が万引き行動をとってしまう背景としてどのようなものが考えられるか（例：認知症によるもの・孤独感etc）
- ②その背景別に支援センターとして再犯防止にむけて対応できることにどのようなことがあるか

●グループワーク内容（抜粋）

- ①高齢者の万引き行動の背景として考えられるもの
「孤独、不安、認知症、節約、病気（依存症）」（A支援センター）
「寂しさ（孤独感）、お金（将来）の不安、判断能力低下（認知症等）、意図的な再犯」（B支援センター）
- ②「孤独、寂しさ」に対し、支援センターとして考えられる対応

A	その人の気持ち、生活歴などを捉えて孤独を感じている原因について傾聴し、疎外感を知る。話し合いのもとで必要な支援につなげていく。
B	人との関わり（交流）の場（サロンや長寿会など）を提供
C	地域の居場所づくりや民生委員の見守り
D	淋しさを埋められるような集まりの紹介
E	一人暮らし登録や地域の集まりの紹介、居場所づくり、民生委員の訪問。健康で生活できているうちから居場所づくりを地域と共に行ない、そこでの本人らの役割が見いだせる取り組み。

【考察】

参加者の声としては、「今まで万引きにフォーカスして考えたことはなかったので、身近にある問題だと認識できた」「若者よりも高齢者の方が万引きによる検挙件数が多いということは知らなかった」「認知症の方が万引きをしてしまうという認識はあったが、人間関係の希薄さ、寂しさからも起こり得るということを知ることができた」といったものがあつた。総じて参加者には、これまでこの問題について考える機会がなかったので、新しい課題が認識できたと受け止められた。グループワークでは、孤独の問題に加え、お金の不安、認知症の問題、お店側の防犯対策の強化など、各センターから意見が出た。

連携例2：神奈川県更生福祉施設協議会「第1回職員研修会」

●実施概要

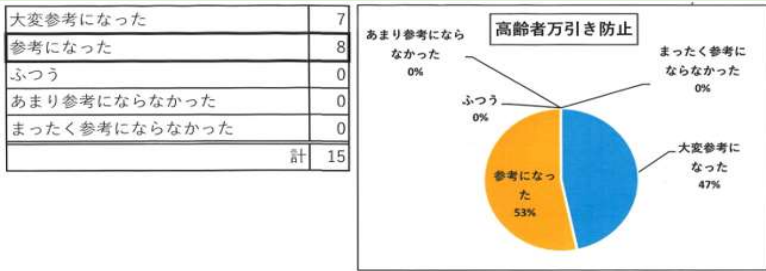
実施日：令和2年12月18日

出席者：神奈川県更生福祉施設協議会（更生保護施設、自立支援施設
地域定着事業などの関係職員）15名

実施方法：単身者編DVDの視聴とアンケートの実施（コロナ禍における施設の対応研修内にて）

●アンケート結果

大変参考になった7名／参考になった8名



●上記の回答を選択した理由（抜粋）

「万引きをするには、孤独・孤立が関わっていることが分かった。」

「万引きという行動そのもの以外に原因があるということを再認識できた。」

「万引きの事象の背景となる内容が理解できた。孤独の解消やキーパーソンの大切さ。」

「（DVDは）わかりやすく作られていると思いました。」

「万引きだけでなく、高齢者の独居は大変つらいものだと思った。経済成長を成し得た国なのに、本当の幸せは何だろうと考えさせられます。」
など

【考察】

DVDの感想としては、「大変参考になった」「参考になった」が約半々で、高齢者の孤立化を防ぐというテーマに共感する声を多数いただいた。今回のプログラムは初犯の被疑者を想定して制作しているが、「重犯についての説明などがもう少しあるとよかった」といったものがあった。要望として、「施設又は法人内の事業所にも伝え、見てほしい」といった福祉施設における活用に関する意見があったことから、今後さらに活用範囲は広がることが期待される。

連携例3：神奈川県保護司会連合会「冊子アンケート」※別添③

●アンケートの目的

地域の防犯活動に取り組む保護司の方々に、冊子が活動に資するものであるか現場の声をお聞きする。アンケートの結果は、今後、地域の安全安心活動に携わる方々との連携を進めるうえでの参考とする。

●実施概要

実施期間：令和2年12月

実施対象：保護司（地域保護司会）

実施方法：神奈川県保護司会連合会本部を通じて、地域保護司会45か所に配布物を送付

配布物：冊子「あなたはひとりぼっちじゃない。」100部

●アンケートの回答数

回答数：37名（依頼数：46名）

●保護司における冊子の活用方法（抜粋）

- ・対象者への処遇面接における再犯防止のための説諭の際や家族及び引受人に対して、保護観察への協力をお願いなどに使用できる(多数)
- ・万引きした高齢者の家族は、本人に対してどのように接したらよいか困惑しているケースが多いので、そのような家族にもこの冊子は有効
- ・保護司としての勉強のためにも冊子を活用したい(多数)
- ・各地域のミニ集会・各町会・自治会等の老人会で予防PRしたい
- ・高齢者を対象としている団体等(民生児童委員)に渡して活用して頂く
- ・「高齢者だけでなく、若い人達にも利用できそう」など

【考察】

実際に高齢者の万引き犯罪に関わった者は、約3割。もしそのような高齢者がいたら冊子を渡したいと思うが9割を超えた。要望としては、「犯罪予防活動の一環として利用したい。従って全保護司にも配布して利用度を高めたい」という声が多数寄せられた。

なお、慎重な意見としては、「対象者の家族等への配布は、万引きに至る原因がケース毎に異なると思われるので、一考を要する」というものもあった。改善点としては、「外国人にも読めるように漢字にフリガナを振る」「独居老人等、一人暮らしを和らげる様な具体的な事例がほしい」といったものがあった。

連携例4：横浜市立大学「教室セミナー」

●実施概要

実施日：令和2年11月28日

出席者：大学生、教員

実施内容：教室セミナーにおいてDVDの視聴とアンケートの実施

●アンケート回答数

32名（学生28名、教員4名）

●アンケート結果

	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	非常にあてはまる	平均（SD）
良かった	0	6	6	17	3	3.53 (.92)
勉強になった	1	0	2	23	6	4.03 (.74)
ひきこまれた	1	5	11	11	4	3.38 (1.01)
関心が高まった	1	1	7	16	7	3.84 (.92)
	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	非常にあてはまる	平均（SD）
高齢者の万引きの性質を実感した	0	1	3	15	13	4.25 (.76)
警察に通報することの重要性を実感した	0	1	7	18	6	3.91 (.73)
地域社会全体で取り組むことの重要性を実感した	1	1	3	14	13	4.16 (.954)
万引きする側にも背景があることを実感した	1	1	4	8	18	4.28 (1.02)
万引きした際の周りの反応が重要であることを実感した	0	1	4	6	21	4.47 (.84)
万引きをするとどうい措置がとられるのかを実感した	1	0	2	11	18	4.41 (.88)

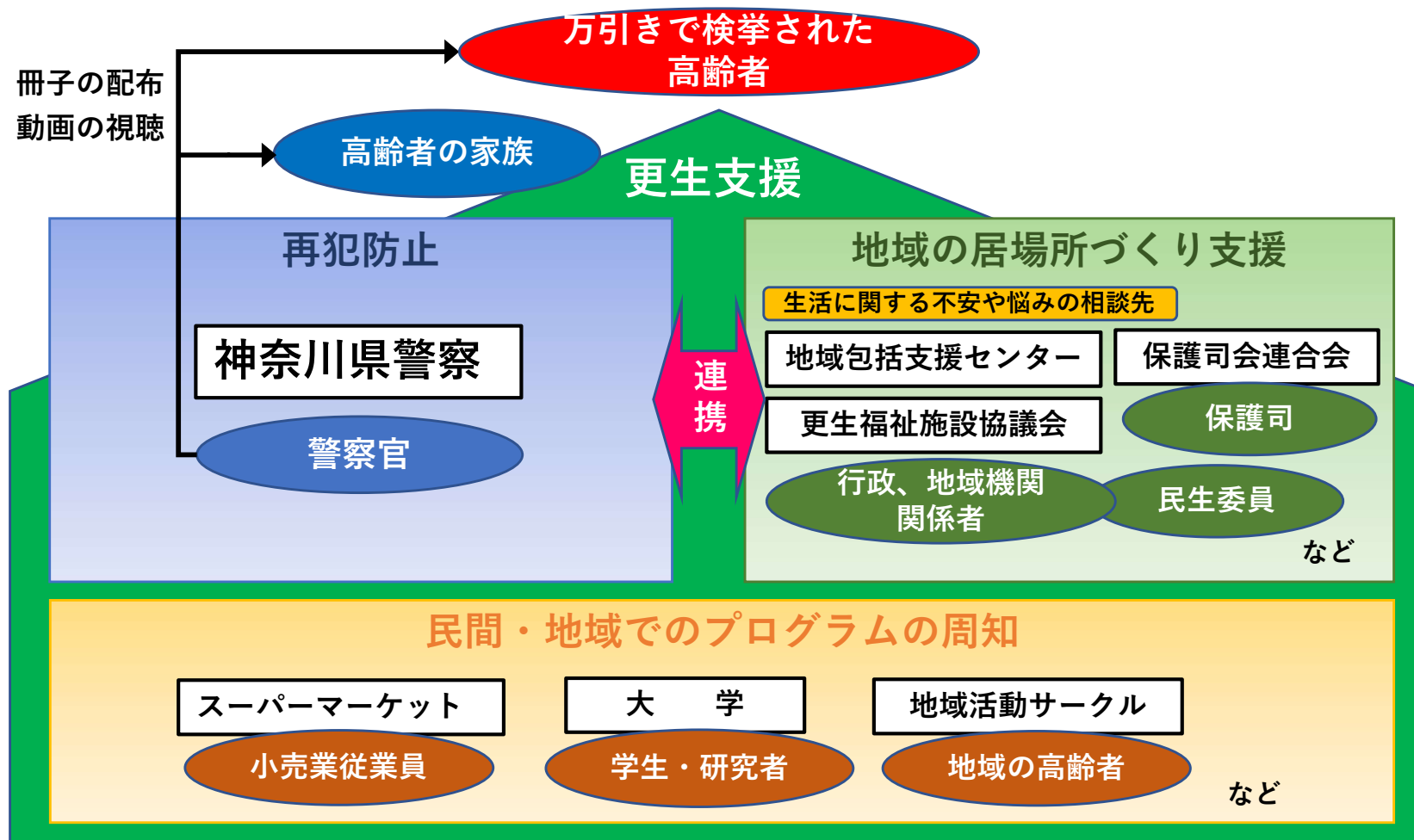
【考察】

アンケート結果の特徴としては、「万引きをした際の周りの反応が重要であることを実感した」「万引きをするとどうい措置が取られるのかを実感した」の質問に対し、「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答した者が多かった。

「万引きをした際の周りの反応が重要であることを実感した」者が多かったことから、この問題に関して地域社会全体で取り組むことの重要性を感じてもらえたことが伺える。全体としては、学生の評価はおおむね高く、教員の評価はやや厳しい傾向が見られた。

今後の課題としては、高齢者の万引きが多いということを知らなかったという感想が非常に多かったので、県としても大学においてこの問題を周知していく必要があると思われる。

神奈川県「高齢者万引き防止プログラム」全体イメージ



プログラムに関する問合せ先

神奈川県福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課

万引きに関する相談窓口

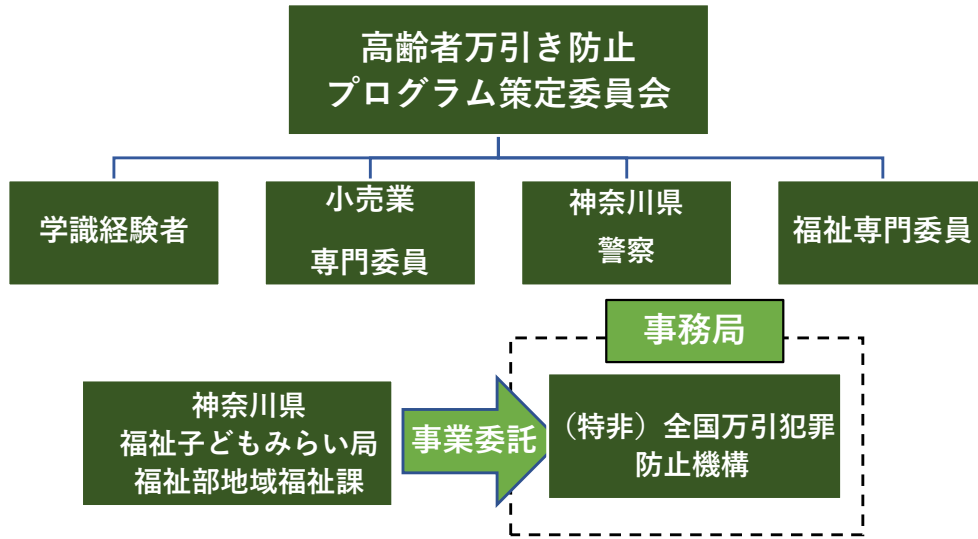
(特非) 全国万引犯罪防止機構

作成：高齢者万引き防止プログラム策定委員会

【参考】高齢者万引き防止プログラム策定にあたって

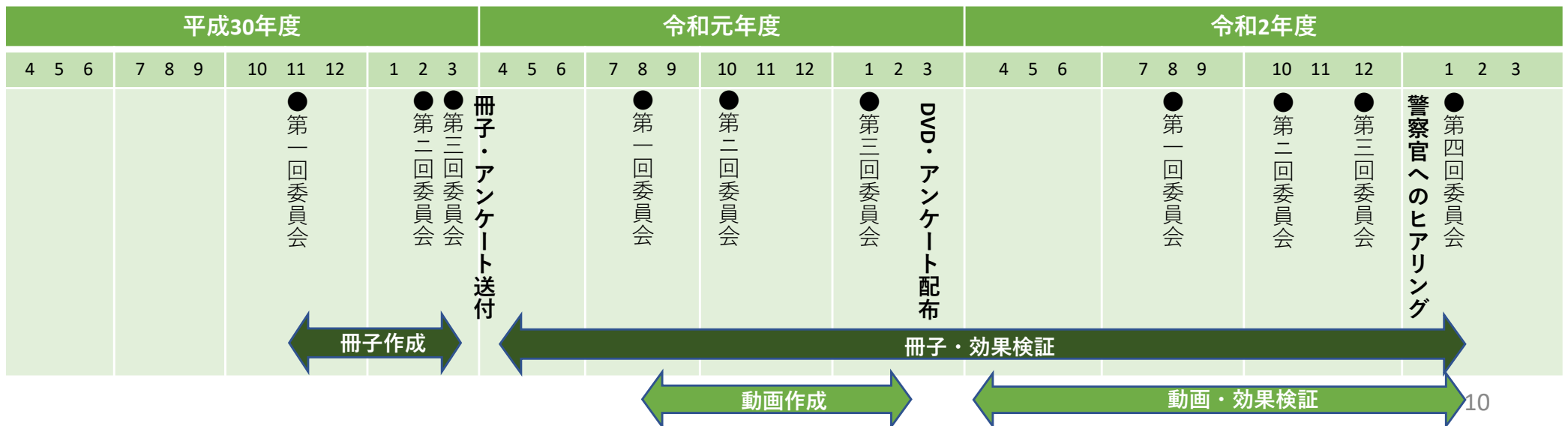
高齢者万引き防止プログラム策定委員会

体制図



委員氏名	所属・役職
土井 隆義	国立大学法人筑波大学 人文社会系 教授
大久保 智生	国立大学法人香川大学 教育学 准教授
増井 徳太郎	一般社団法人全国スーパーマーケット協会 副会長
吉川 裕介 ※令和元年度, 2年度	神奈川県警察 生活安全部 生活安全総務課 犯罪抑止対策室 副室長
笹生 一郎 ※平成30年度	神奈川県警察 生活安全総務課 警部
佐藤 雅美	鶴巻地域高齢者支援センター 神奈川県社会福祉士会会員
石井 謙次	救護施設岡野福祉会館 施設長 神奈川県更生福祉施設協議会副会長

開催スケジュール



プログラムの効果検証の実施方法

①冊子と動画に関する被疑者アンケート※別添④

冊子	動画
<p>【実施期間】 令和元年3月～令和3年1月</p> <p>【実施場所】 神奈川県警察 54警察署</p> <p>【実施対象】 万引をして検挙された高齢者</p> <p>【実施方法】 警察署において取り調べ後、冊子を読んでもらいアンケートに記載してもらう。その場に立ち会った警官にも高齢者の様子や発したコメント等を記入して貰う。</p> <p>【実施件数】 85件</p>	<p>【実施期間】 令和2年3月～令和3年1月</p> <p>【実施場所】 神奈川県警察 8警察署</p> <p>【実施対象】 万引きして検挙された高齢者</p> <p>【実施方法】 警察署において取り調べ後、D VDを視聴してもらいアンケートに記載してもらう。その場に立ち会った警官にも高齢者の様子や発したコメント等を記入して貰う。</p> <p>【実施件数】 33件</p>

アンケート項目（抜粋）

冊子	動画
<ul style="list-style-type: none"> ・全体として内容は理解できましたか ・どのページが特に印象に残りましたか ・万引きが重大な犯罪であると理解できましたか ・万引きで捕まるとどんなことが待っているか理解できましたか ・日々の暮らし方を見直してみようと思いましたか など 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公に共感できましたか ・万引きが重大な犯罪であると理解できましたか ・万引きで捕まるとどんなことが待っているか理解できましたか ・日々の暮らし方を見直してみようと思いましたか ・地域や家族のつながりが大切だと思いましたか など

被疑者アンケートの結果考察

冊子	動画
<p>【考察】 冊子全体の内容理解としては「内容は理解できた」との回答が89%と、わかりやすい内容の冊子に仕上げる事ができた。 「印象に残ったページ」への回答から、万引きが自分の思った以上に重大な犯罪であること、そして、捕まった後に待っていることのつらさを印象付ける事ができた。 意識の向上の観点では、「自分の暮らしを見直してみたい」が91%、「地域の方が集まる場所に行ってみたい」が88%、「相談先に相談したい」が50%と今後の再犯防止につながる手応えが得られた。 その場に立ち会った警察官の備考欄の記載内容から、被疑者の多くが当該冊子を真剣に読んでいる様子が見られた。 今回のアンケート結果により、本冊子は高齢者万引きの再犯防止という本プログラムの目的に資する効果を挙げることができた。 今後の課題としては、被疑者だけでなく、その家族にもこの問題に目を向けてもらうために、積極的に配布することが求められる。 今後本冊子の活用をより積極的に進めていくことで、本プログラムの目的のさらなる実現を図ることが期待される。</p>	<p>【考察】 冊子に比べると視聴の数は少ないものの、今回の効果検証により、本動画は高齢者万引きの再犯防止という本プログラムの目的の資する効果を上げることができた。「主人公に共感できた」という声と印象に残るシーンがあったという回答が複数あった。 アンケート結果は冊子と同様、肯定的・積極的な回答が大部分であった。動画の特徴としては、万引きが「重大な犯罪であることを理解したか」という質問に対して「よくわかった」という回答が100%だった。このことは、被害者である店長が強く憤る姿や取り調べで警察官から窃盗罪の説明を受ける映像のインパクトが、重大性の理解の促進に繋がっていることが推察できる。 今後の課題としては、より多くの高齢者の万引き被疑者に視聴してもらうため、警察署へのDVDプレーヤーの追加配布や、タブレットなどの端末で視聴できるように視聴環境の整備等が挙げられる。 アンケート結果を踏まえ、今後動画の活用をより積極的に進めていくことで、本プログラムの目的のさらなる実現を図ることが期待される。</p>

プログラムの効果検証の実施方法

②被疑者アンケートを実施した警察官へのヒアリング※別添⑤

【実施期間】

令和3年1月

【実施場所】

平塚署、藤沢署、秦野署、大磯署、戸塚署、川崎臨海署、戸部署

【実施対象者】

被疑者に冊子と動画に関するアンケートを行った際に対応した警察官のうち、アンケートの警察官記載欄に有意と思われる感想を記入した警察官。

【実施方法】

冊子と動画の質問項目を記載したヒアリングシートをそれぞれ用意し、上記の警察官に電話で質問を行い回答を得た。

【実施数】

冊子に関して5名。動画に関して3名。

ヒアリング項目（抜粋）

冊子	動画
<ul style="list-style-type: none"> ・（あなたが）気に入ったページや言葉はありますか ・冊子を見てもらうタイミングは、身柄引き受け前の待ち時間が良いと思いますか ・被疑者が冊子を見ることは再犯防止に効果があると思いますか ・（上記で「とても（少し）効果がある」とした方にお聞きします） そう思う理由について記載してください など 	<ul style="list-style-type: none"> ・（あなたが）気に入ったシーンやセリフはありますか ・動画を見てもらうタイミングは、身柄引き受け前の待ち時間が良いと思いますか ・被疑者が動画を視聴することは、再犯防止に効果があると思いますか ・（上記で「とても（少し）効果がある」とした方にお聞きします） そう思う理由について記載してください など

警察官ヒアリングの結果考察

冊子

【考察】

再犯防止の冊子の効果については、「少し効果がある」4名「とても効果がある」1名で、実際に万引きの被疑者に対応している警察官の立場からも効果に期待が持てるという回答だった。その回答を選んだ理由としては、「ほとんどの者が反省している様子が伺える」

「じっくり読んでいる様子が伺える」といった被疑者の様子が挙げられた。冊子を渡すタイミングは、5名とも身柄引き受け前の待ち時間が「よい」と答えた。

冊子の目を引く箇所としては、2ページの「10年以下の懲役又は50万円以下の罰金」が挙がり、このページを見て、被疑者の「驚き、省みている」様子がみられた。冊子の感想（自由記載）では、警察官の側としても、「万引きという犯罪についての説明に活用できる」という感想があった。

また、身柄引き受けに来た家族が真剣に読んでいた様子を見て、「家族にも読んでもらうとよいと思う」という意見があり、冊子の配布先として家族の重要性が現場の意見としても聞かれた。

動画

【考察】

再犯防止の動画視聴の効果については、「とても効果がある」1名「少し効果がある」1名「あまり効果がない」1名。冊子に比べて回答数が少ないため、拙速な評価はできないが、効果について肯定的な評価が2/3を占めた。効果があるを選んだ理由としては、冊子と同様に、「しっかりと視聴している様子が伺える」といった被疑者の様子や「少しでも良心がある者には響くと思う」という回答があった。

「あまり効果がない」を選んだ理由としては、生活困窮者や独居が多い、ケースワーカーの支援を受けている者がほとんどという地域性が挙げられた。生活困窮者による万引きの再犯を減らすには、本動画の視聴では効果は期待できず、福祉的な困窮者対策の範疇に入ることは、プログラム策定委員会でも意見が挙がった。

また、警察官自身が気に入ったシーンとして、「家族や保護司が身柄引き受けにくる場面」が挙げられた。動画の被疑者以外への活用方法としては、「高齢者を対象とした団体の職員の研修」との意見があるなど、地域包括支援センター等への活用範囲の拡充が求められる。